



プレイヤー名	
プレイ日	
GM	

シナリオタイトル	「ライア」	
キャラクター名		オリジン

ヒーローが子供たちを助ける。  
 子供たちがヒーローに憧れる。  
 それはとてもよくあることだ。

デッドライン  
 死線の上にあるこの世界でも、たびたび起こる幸福な事例だ。  
 けれどその日、警察署に持ちこまれたのは  
 「子供たちからの」「ヒーロー救出依頼」だった。  
 G6にも記録のない、彼のヒーローネームは「ライア」。

同じ頃、とあるヴィラネスが  
 「人間の子供の腕」を収集しているという情報が  
 ヒーローたちの元に、届いた。

デッドライン・ヒーローズ TRPG  
 「ライア」

エナジー	ライフ	最大値	現在値
	サニティ	最大値	現在値
	クレジット	最大値	現在値

公開情報

- ・リトライ：2
- ・初期グリット：3
- ・チャレンジ：2
- ・クエリー：3

リマーク	<input type="checkbox"/>
臨死状態	<input type="checkbox"/>
成長点	

エントリー①：

「おねがい、します。“(PC1のヒーローネーム)”さん」

今日もヒーローとして活動しているキミのところに、小さな女の子が頼みごとをしに来た。

内容は、ある人物の救出。彼女と仲間たち皆の大切な人なのだという。

依頼料のつもりなのか、ぱんぱんに膨らんだ巾着を差し出して少女はキミに頭を下げる。中身はビー玉、貝ボタン、トレーディングカードに瓶の蓋……かき集められた子供たちの宝物でいっぱいだった。

「なまえは、『ライア』。ヒーローの、『ライア』です」

エントリー②：

キミは、2週間前から続く児童連続行方不明事件の調査に当たっている。これまではG6本部が犯人を捜索、ヒーローたちが再発防止のためのパトロールを行っていたが、事態が膠着。G6はついに、組織で最も有力なヒーローのひとりであるキミに「子供たちの救出、犯人の逮捕」を改めて依頼したのだった。

同時に、市民にもよく知られているキミの名前と顔を出すことで、広く一般に情報協力を求めるという。歩く捜査本部となったキミのもとには、玉石混交の情報が舞いこみはじめ――

エントリー③：

キミは先日、「ザ・カーニバル」の女ヴィラン「ザ・ドールメイカー」の作り出したクリーチャーと戦った。

キミもかなりの深手を負ったが、相手もほぼ相打ちとなり、ヴィラネスは半壊した「作品」を引きずって、ほうほうのていで逃げていった。

「見てらっしゃいな、今度こそ私のこの子が勝ちますわ！」

負け犬の遠吠えと、その時は思ったものだったが……

あのクリーチャーが「修繕」され、再び動き出そうとしていると聞いて、黙ってられるキミではない。

メモ